

平成 27 年度 第 2 回横浜市うらしま荘指定管理者選定委員会 会議録	
日 時	平成 27 年 7 月 27 日 (月) 14 時 30 分～17 時 00 分
開 催 場 所	神奈川区役所本館 2 階中会議室
出 席 者	河原委員長、入江委員、大山委員、妹島委員 (計 4 名)
欠 席 者	なし
開 催 形 態	応募団体の面接審査は公開とするが、指定候補者及び次点候補者の選定審議については非公開とする。(傍聴者なし)
議 題	1 面接審査 (2 団体) 2 指定候補者選定審議
審 議 結 果	1 面接審査 (2 団体) (1) 特定非営利活動法人こらぼネット・かながわ (2) 公益財団法人横浜市老人クラブ連合会 2 指定候補者選定審議 横浜市うらしま荘第 3 期指定管理者の候補者及び次点候補者を、次のとおり選定した。 (1) 指定候補者は、評点 81.75 点 (合計点数 327 点) の「特定非営利活動法人こらぼネット・かながわ」を選定した。 (2) 次点候補者は、評点 77.75 点 (合計点数 311 点) の「公益財団法人横浜市老人クラブ連合会」を選定した。
委 員 意 見 等	1 面接審査 (2 団体) (応募団体ごとの主な質疑応答) (1) 特定非営利活動法人こらぼネット・かながわ (委員) 生活相談等に関してケアプラザと連携を行うとしているが、ケアプラザとの関係はどうなっているのか。 (団体) 認知症予防等について、日頃からケアプラザによく相談している。現在すでに施設内にブースを試験的に設け、ケアプラザ職員による相談を実施している。 (委員) 認知症支援についてはケアプラザが所管なので、単にケアプラザを紹介すればいいのでは。 (団体) ただ、介護や認知症予防についての情報提供を行うという意味合いもある。併せて、ケアプラザと顔の見える関係を構築することも大事だと考えている。 (委員) 平成 24 年度の苦情対応件数が多かった理由を教えてください。 (団体) 大広間における利用者同士のトラブルが多発したため。翌年度以降、苦情を減らすための施策を行い、苦情は減少した (委員) 職員のミーティングの参加率はどのくらいか。 (団体) 休館日に実施しているため、参加率は 100 パーセント。

	<p>(委員)「うらしまほっとサロン」とは、どのようなものか。</p> <p>(団体)「ふらっと立ち寄れるスペースがほしい」という利用者の意見を受け、二階ロビーのスペースを活用し、利用者が歓談できる場所をつくった。あわせて、簡単な講座を実施している。講師は利用者の中から応募しているため、講師も利用者も楽しめる仕組みを立ち上げた。第三期も継続して実施していきたい。</p> <p>(2) 公益財団法人横浜市老人クラブ連合会</p> <p>(委員) 区の社会福祉協議会とどのように連携を図っていくのか。</p> <p>(団体) 横浜市、横浜市社会福祉協議会、横浜市老人クラブ連合会、横浜市シルバー人材センターの4団体が高齢者の相談窓口として、生きがい就労支援スポットを立ち上げた。そうした実績をうらしま荘の運営にも活かしたい。</p> <p>(委員) 今後、人材の確保はどのように行う予定か。</p> <p>(団体) 所長、副所長については、公の施設を理解している者、スタッフについては、高齢者を理解し、介護に関して知識がある者をそれぞれ採用していきたい。</p> <p>(委員) スタッフの勤務体系について、7日連続勤務とあるが、問題はないのか？</p> <p>(団体) 予算的に厳しいため、このような形をとった。変形労働契約を結び、1週間働き、1週間休みという形を想定している。</p> <p>(委員) 事業計画および事業企画の中に「就労相談」とあるが、意図を教えてください。</p> <p>(団体) うらしま荘の利用者は60歳以上。定年後間もない方の中には、もっと働きたいという方もいるので、そのような方々を支援することも必要だと考えている。また、男性で地域になじんでおらず、定年後、何をしたいかわからないという方が多い。そういう方々を支援したい。</p> <p>2 指定候補者選定審議</p> <p>(1) 応募2団体の財務状況について、大山委員より説明</p> <p>(2) 各委員より、評価が高かった点、課題とされた点などの講評があった。内容は選定結果報告書としてまとめる旨を委員に連絡した。</p>
そ の 他	本委員会における選定結果は、委員長から神奈川区長へ報告する。